

歴史民俗資料館の今後の活用方針について

はじめに

現在、文化関係施設においては、白沢カルチャーセンター機能の白沢公民館への移行、旧第2子ども館や白沢体育館倉庫などに収蔵してある古文書・公文書、民俗・考古資料、美術資料、郷土資料の新たな収蔵場所としてのしらさわカルチャーセンターの展施収蔵設化改修を進めている。

このような状況で、歴史民俗資料館機能及び建造物の利用法、白沢ふれあい文化ホールの美術館化等本宮市の歴史・文化・芸術施設の再編、さらには、白沢公民館、しらさわ夢図書館を含めた文化拠点施設としての位置づけについて検討する。

1. 歴史民俗資料館本館の今後の利用方針検討の経緯

- ①令和3年10月教育委員協議会において、本館の保存については耐震改修工事が必要であり、保存には多額の費用が生じることから費用対効果等も含めた検討案の提示が求められた。
- ②歴史民俗資料館本館は、近代建築物として歴史的建造物に該当する。また、本市に現存する非木造建築物としては最古のものである。
※歴史的建造物とは、地域固有の歴史的・文化的価値を醸成するもの、地域の方々に地元の建築物として愛されている建造物をいう。
- ③歴史民俗資料館本館の耐震について、歴史的建造物の修復・復元の実績がある業者に耐震化の可否及び耐震補強実施設計費の見積もりを依頼中。
※軍艦島、富岡製糸場、築地本願寺、等を修復・復元したもの3者。

2. 歴史民俗資料館の今後の方針案について

- ①現存建物を解体し新たに資料館を建設
 - ・現存建物の解体について理解をえることが必要
 - ・現地では、面積が狭く展示面積及び収蔵面積の確保が困難
 - ・解体及び新築に係る費用について検討が必要
- ②現存建物を耐震改修し継続して資料館として活用
 - ・耐震改修費用と新築費用との費用対効果の検討が必要
 - ・耐震改修後展示及び収蔵面積の減少
 - ・利用者増について別途方策が必要